

重点1 毎日の授業の充実

3 少人数授業（習熟の程度に応じた授業）

ねらい

一人一人の特性や違いに応じて、確かな学力を育むことが求められています。特に、少人数授業を積極的に取り入れて、きめ細かな指導に努めるとともに、学習の理解の程度や到達度に配慮して、基礎学力を定着・向上させるために習熟の程度に応じた授業も進めています。

なお、習熟の程度に応じた授業とは、子どもの希望や教師との話し合いによって、学習の到達度（理解や習熟の程度）に応じて、別々の教員が指導する学習集団・コース等を選んでいくものです。一年間、学習する集団を固定するのではなく、学習する内容や方法などによって変化するものをいいます。

現状

○ 少人数学級の実施状況

〈みえ少人数・加配・独自学級〉

(平成19年度)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
実施校数	16 (み16)	15 (み15)	1 (加1)	1 (独1)	1 (加1)	0	7 (み7)	1 (加1)	6 (み2) (加4)

\* ( )内数で、み…みえ少人数 加…加配学級 独…独自学級 を示す。

○ 少人数授業の実施状況

〈小学校の実施学校数〉

(平成19年度 教育計画等から)

教科 学年	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画 工作	家庭	体育	総合	実施校数
1年	26(3)		34(4)		23(0)	18(0)	18(0)		22(0)		31(4)
2年	26(2)		33(3)		22(0)	16(0)	18(0)		20(0)		32(3)
3年	9(0)	1(0)	29(8)	3(0)		1(0)	3(0)		3(0)	5(0)	31(8)
4年	11(1)	2(0)	31(8)	3(0)		1(0)	2(0)		2(0)	6(0)	33(9)
5年	10(0)	2(0)	33(10)	2(0)		0(0)	3(0)	2(0)	2(0)	9(0)	33(10)
6年	7(0)	1(0)	33(11)	2(0)		1(0)	0(0)	0(0)	2(0)	10(0)	34(11)

\* ( )内数は、少人数授業で、「理解や習熟の程度に応じた授業」を日常的に実施している学校数

〈中学校の必修教科・総合における実施学校数〉

(平成19年度 教育計画等から)

学年	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健 体育	技術・ 家庭	英語	総合	実施校数
1年	9(0)	6(0)	22(2)	8(0)	9(0)	7(0)	8(0)	7(0)	16(1)	15(0)	20(2)
2年	5(0)	1(0)	19(3)	1(0)	1(0)	2(0)	1(0)	1(0)	14(1)	10(0)	22(3)
3年	5(0)	4(0)	20(4)	4(0)	4(0)	4(0)	5(0)	4(0)	17(2)	12(0)	19(4)

\* ( )内数は、少人数授業で、「理解や習熟の程度に応じた授業」を日常的に実施している学校数

- ・ 小学校 40 校、中学校 22 校のほとんどの学校で、少人数授業を実施していますが、各学校の実状や子どもの実態に応じて、習熟の程度に応じた授業を取り入れる教科や学年が異なっています。
- ・ 小・中学校ともに、算数・数学科での実施が最も多く、その効果的な活用についての研究が、校内研修等を中心に進められています。

- 平成16年度以降の実施学年数の減少傾向は、小・中学校ともに「みえ少人数学級」「少人数加配学級」などの措置により、学級数が増加しているためです。しかし、これらの学年では、1学級の人数が少なくなっていることから、日常的に少人数授業が行われているといえます。

＜教科による少人数授業の推移＞

	教科	16年度	17年度	18年度	19年度
小学校	国語	108 学年	93 学年	42 学年	57 学年
	算数	182 学年	182 学年	168 学年	157 学年
中学校	数学	59 学年	42 学年	51 学年	49 学年
	英語	45 学年	37 学年	38 学年	35 学年

### ○ きめ細かくいきとどいた指導を行うための授業時間数

市内で実施されている多くの少人数授業は、国から配置された定数内加配教員によって行われていますが、市単独で配置した非常勤講師によるチームティーチングや少人数授業等が行われるなど、児童生徒一人一人へのきめの細かい、行き届いた指導が、学校や児童生徒の実態に合わせて展開されています。

＜市単独で配置した1校あたりの非常勤講師（平均）＞\*学校規模によって変動があります。

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
週あたりの授業時間数	約40時間	約38時間	約36時間	約36時間
配置人数	2.2人	2.2人	2.5人	2.5人

### ○ 教員の教育力を向上させる取組（教育アドバイザーの派遣）

各学校に配置している非常勤講師の指導力を向上させ、少人数授業の効果を一層高めるため、退職した学校長や教員あるいは大学教授等専門的知識や技能を持った人材を、常任または臨時教育アドバイザーとして各学校に派遣しています。

教育アドバイザーは、定期的にあるいは学校の求めに応じて学校を訪問し、市の非常勤講師だけでなく、必要に応じて国・県の非常勤講師、常勤講師、正規教員に対して指導を行っています。具体的には、授業を参観するなどして、教員としての基本的な知識や指導技術を中心に、個々の教師の実態に応じて指導力を向上させる助言を行っています。

本年度の教育アドバイザーによる指導時間の実績は以下の通りです。

年度 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成18年度	59	179	123	55	0	108	171	170	55	145	172	39	1276
平成19年度	54	123	220	93	37	49	260	184	57	168	163	30	1438

※ 平成19年度は、指導回数が162回増加しています。

## 課題（今後の方向）

- 少人数を生かした授業の円滑かつ効果的な実施を図るため、「ねらいを明確化し、ねらいに応じた効果的なコース分け」「習熟の程度に応じた授業に対する誤解や偏見を生まない配慮」「子どもたちの希望を重視したコース選択とコースの移動」などに留意します。
- 一人一人の特性や違いに応じた指導を図るため、「学習の理解度や到達度に配慮したきめ細かな指導」「子ども一人一人の多様な考えを引き出す授業」「思考力を高め自分の考えを伝え合う授業」など、少人数だからこそできる効果的な指導方法等の検討を進めます。
- 少人数の授業で培った手法を一斉授業にも取り入れ、少人数授業のよさを生かした授業づくりを図ります。